科目名	看護学概論	科目ナンバリング	N-NP　BN　2-00.H N	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	前期
		科目コード	N30001	時　間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山 靖子 （実務経験のある教員）		授業形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	有							

授業の概要等	〔授業の主旨〕 看護学概論では、「看護とは」なにかを探求します。そのため授業では、看護の歴史的変遷、看護を説明する概念、看護理論、看護の対象や役割、看護を行う過程など、看護の基礎となる知識を学び、人間が健やかに生きることを支える看護のあり方、社会の中での看護の役割を学びます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1.2.4.5に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。
到達目標	１．看護の対象・役割・機能が説明できる。 ２．現在の看護に至るまでの歴史的変遷について説明できる。 ３．主な看護理論の主要概念が理解できる。 ４．看護を行う過程が理解できる。 ５．自己の看護観を人に伝えることができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	コースオリエンテーション 看護の概念（1）	１．科目の位置づけ、授業の概要、履修上の留意事項 ２．看護とは	講義
第2回	看護の概念（2）	看護の語義・定義	講義
第3回	看護の歴史的変遷（1）	原始古代社会における看護、宗教上の信仰に基づいた看護	講義
第4回	看護の歴史的変遷（2）	職業的看護の発達、看護の専門化の歩み	グループワーク
第5回	看護の歴史的変遷（3）	ナイチンゲールの看護論	グループワーク
第6回	看護の役割・機能（1）	看護における健康とは	講義
第7回	看護の役割・機能（2）	看護活動の実際	グループワーク
第8回	看護の役割・機能（3）	チームケア（医療）における看護の役割	プレゼンテーション
第9回	看護の対象（1）	中間テスト/看護における健康とは	
第10回	看護の対象（2）	看護における健康とは	講義
第11回	看護の対象（3）	看護における人間の捉え方とは	講義
第12回	看護理論の変遷（1）	看護理論とは	グループワーク
第13回	看護理論の変遷（2）	主要な看護モデルと理論	講義
第14回	看護における倫理	看護実践と倫理	講義
第15回	まとめ	まとめ	グループワーク

評価方法及び評価基準	・2/3以上の出席者に対して、筆記試験（80%）、レポート（20%）により評価します。 ・レポートは、授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。
課題等	課題にはコメントを追加し、返却します。
事前事後学修	・主題について関連する内容を事前学習してください。 ・週当たり3時間程度、授業外に学修を進めましょう。
教材教科書参考書	・茂野香おる他：系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学［1］看護学概論 第17版，医学書院，2022，978-4-260-03862-1 ・フロレンス・ナイチンゲール：湯槇ます他訳，看護覚え書き－看護であること・看護でないこと－，現代社，2011．978-4-87474-142-9 ・バージニア・ヘンダーソン：湯槇ます，小玉香津子訳，看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2016．978-4-8180-1996-6
留意点	・自ら学ぶ姿勢をもって授業に臨んでください。また、医療をとりまくさまざまなニュースに注意し、看護との関連について考えてみましょう。 ・本科目の単位修得は、「基礎看護学実習Ⅰ」を履修するための必要要件になっていることに留意してください。

科目名	対 象 論		科目ナンバリング	N-NP NI 2-35.S N	単位数 時　間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	N30036		15時間				
区分	看護実践科目	選択	担当者名	柳澤尚代　川村泰子 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義		複数
	アクティブラーニング	有								

授業の概要	［授業の主旨］ １）病気や障害を持つ人やその家族の経験や闘病記・文献を通して、看護が対象とする人々の心理・生活、闘病上の困難・工夫、医療・医療者への期待や要望を理解し、看護者としてあるべき姿や課題を考える。２）地域で自立した生活を営む人々を対象に、健康づくり活動が展開されている。それらの活動に参加するボランティアの人々をゲストスピーカーとして招き、予防活動への理解を深める。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ・ディプロマポリシー1, 2、5に関連し、カリキュラムポリシー教育課程の3に関連している。
到達目標	１）病気や障害を持つ人やその家族の心理、生活、闘病上の困難と工夫を理解する。 ２）地域で自立した生活を送る人々の健康づくり活動の実態やきっかけ、および活動満足感を理解する。 ３）看護が対象とする人々の医療や医療者への期待や要望を理解し、看護者としてあるべき姿や課題を考えることができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	オリエンテーション、授業の目的、 意義、進め方	1)看護者が対象としている人々から学ぶ、意義・目的とは 2)病気や障害の体験と、体験している人々の特徴(事例紹介)	柳澤
第2回	闘病記・文献を読む（1）	（DVD）「ALSの岡部さんの場合」 ・グループワークにてディスカッションする	ディスカッション グループワーク
第3回	闘病記・文献を読む（2）	（DVD）NHK長すぎた入院（精神障碍者のライフヒストリー） ・グループワークにてディスカッションする	ディスカッション グループワーク
第4回	闘病記・文献を読む（3）	・「ぼくの命は言葉とともにある」を読み、話し合う。 ・グループワークを行い、グループ毎にプレゼンテーションする	ディスカッション グループワーク プレゼンテーショ
第5回	ゲストスピーカーの体験を聴く（1）	・就労する精神障害者のライフヒストリーと支援者の体験 ・障害を持つ当事者と支援者との対話型のミーティング	ディスカッション グループワーク プレゼンテーショ
第6回	ゲストスピーカーの体験を聴く（2）	健康推進員など、健康づくり活動に参加するボランティアの人々の話を聞く（傾聴・絵本読み聞かせ）	ディスカッション グループワーク プレゼンテーショ
第7回	グループワーク	闘病記・文献での学び、ゲストによる体験を聴くことで気づいたこと、学んだこと、考えたことを話し合い発表の準備をする。	ディスカッション グループワーク プレゼンテーショ
第8回	全体討議（発表）	看護学生としての学び・気づきについて、グループで話し合ったことを発表し、全体でディスカッションを行う	ディスカッション グループワーク プレゼンテーショ

評価方法及び評価基準	1) 2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2) リフレクションペーパー：全ての授業終了後に提出することで、5点を加算する。 3) 定期試験：試験結果は満点を95%として評価する。
課題等	レポートおよび感想シートなどは、返却しない。 Teamsにより適宜支持します。レポート課題は、Teamsにより提出が可能である。
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読んでみてください。読むことで、理解が深まり、ディカッションへの参加も容易になる。
教材 教科書 参考書	・教科書：「ぼくの命は言葉とともにある」、福島智、 致知出版社、ISBN978-4-8009-1072-1 ・授業の中で、適宜図書を紹介する。
留意点	1) 授業で紹介された文献などの自己学習による積み重ねが重要である。 2) 授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かす。 3) 社会の動きや出来事など、日頃のニュースにも関心を持ち、情報を的確に把握することが不可欠である。

科目名	医療・看護倫理	科目ナンバリング	N-NP BN 2-01.H N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	後期
		科目コード	N30002	時　間	15時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	五十嵐　靖彦		授業形態	講義	単独	
	アクティブラーニング	無							

授業の概要等	〔授業の主旨〕 専門職としての看護業務を、適切かつ有効に遂行するための規範となる心構えや行動原理について、倫理的視点から考察する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー1に関連し、カリキュラムポリシー3と関連している。
到達目標	１）看護とは人間関係一般の中でも、特殊・微妙な職域であることを理解できる。 ２）その業務を全うする上では、特に倫理的配慮が大切であることを理解できる。 ３）その倫理的配慮の中では、なによりも生命の尊厳、人権の尊重という価値観を深く身に付ける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	倫理とは	倫理の語義とそれを研究する倫理学についての説明	
第2回	倫理一般と領域倫理	社会人として心得るべき一般倫理と 職域ごとの特殊化される倫理について	
第3回	医の倫理について	医療に関連した職域分野の種々の倫理綱領について	
第4回	看護倫理の概念と歴史	ナイチンゲールから現代までの看護倫理の歩み	
第5回	看護関連のキーワードの解説	人間の尊厳、インフォームド・コンセント、アドボカシー等々	
第6回	同上	続講	
第7回	看護研究と倫理的配慮	研究倫理を審査する倫理委員会について	
第8回	事例研究	こういう場合どう判断し、どう行動すればよいか	

評価方法及び評価基準	平常点（出席状況や授業中の受け答え　１０％）と期末テストの成績（９０％）の合算。
課題等	なし
事前事後学修	なし
教材教科書参考書	教科書は使用しない。毎回資料を配付する。 参考文献は以下 五十嵐靖彦著『現代社会と倫理』花伝社　２０１９ 石井トク編『看護倫理』学研プラス　２０１４，小西恵美子他編『看護倫理』南江堂　２０１２ 島崎玲子他編『看護学概論』４版　医歯薬出版　２０１２ 盛永審一郎他編『看護学生のための医療倫理』丸善出版　２０１２
留意点	毎回授業の終わりに、次回の授業に関連したテーマや文献について当たっておくようにと指示する。 配付される資料はかなりな量になるはずなので、散失しないよう整理し保存すること。

科目名	基礎看護技術論	科目ナンバリング	N-NP BN 2-03.H N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	前期
		科目コード	N30004	時　間	30時間				

区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山　靖子、阿部　智美 （実務経験のある教員）	授業形態	演習	複数
	アクティブラーニング	有					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 看護の対象の日常生活を整え、より健康な状態にするための基本的な技術について、援助技術ひとつひとつの基礎となる要素とその根拠を学習する。看護の対象との相互関係において看護を実践できる能力の基礎を養う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。
到達目標	1．人間を対象とする技術の構成要素および看護技術とは何かを理解する。 2．看護行為に共通する援助技術の意義と方法について、基礎的知識を理解する。 3．看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を習得する。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	オリエンテーション 看護技術とは何か	オリエンテーション 看護技術の特徴と構成	講義(幸山)
第2回	人間関係を成立・発展させるための技術	コミュニケーションの概念、コミュニケーションの基本原理、 コミュニケーションを成立させる要素、対人関係の振り返り	講義(阿部)
第3回	快適な環境をつくる技術	看護における環境の意義と病床の環境、環境のアセスメント	幸山
第4回	快適な環境をつくる技術（1）	環境整備、ベッドメーキング	演習 グループワーク
第5回	快適な環境をつくる技術（2）	環境整備、ベッドメーキング	演習 グループワーク
第6回	安全を守る技術	医療安全の意義と確保、主な医療事故とその予防策	幸山
第7回	休息・睡眠を促す技術	休息・睡眠の意義、休息・睡眠の生理的メカニズム、休息・睡眠の ニーズに関するアセスメント	幸山
第8回	まとめ	授業の総括（中間）	幸山
第9回	活動・運動を支援する技術	移動と移送（車椅子，ストレッチャー）	阿部
第10回	活動・運動を支援する技術（1）	移動と移送（車椅子，ストレッチャー）	演習 グループワーク
第11回	活動・運動を支援する技術（2）	移動と移送（車椅子，ストレッチャー）	演習 グループワーク
第12回	食事・栄養摂取を促す技術（1）	食事・栄養の意義、食事に関する生理学的メカニズム 栄養状態のアセスメン	阿部
第13回	食事・栄養摂取を促す技術（2）	食事・栄養の意義、食事に関する生理学的メカニズム 栄養状態のアセスメント	講師
第14回	食事・栄養摂取を促す技術	食事・栄養の意義、食事に関する生理学的メカニズム 栄養状態のアセスメント、食事・栄養に関する援助方法	演習
第15回	まとめ	授業・演習の総括	幸山、阿部

評価方法及び評価基準	・2/3以上の出席者に対して、定期試験（90%）、受講態度・レポート（10%）により評価します。 ・レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。
課題等	課題にはコメントを追加し、返却します。
事前事後学修	・講義前には事前学習課題を配布します。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出しましょう。 ・週当たり3時間程度、授業外に学修を進めましょう。
教材教科書参考書	・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版，2022．978-4-8404-7536-5 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版，2022．978-4-8404-7537-2 ・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版，医学書院，2021．978-4-260-04790-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介します。
留意点	・既習の授業科目、特に「人体の構造Ⅰ」「人体の機能Ⅰ」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習するようにしてください。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励むことが必要です。 ・「基礎看護学実習Ⅰ」の履修要件の科目であることに注意しましょう。

科目名	基礎看護技術演習Ⅰ	科目ナンバリング	N-NP BN 2-04.H N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	前期
		科目コード	N30005	時　間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	阿部　智美、幸山　靖子 （実務経験のある教員）		授業形態	演習	複数	
	アクティブラーニング	有							

授業の概要等	〔授業の主旨〕 基礎看護技術論を基に、看護の対象の日常生活を整え、より健康な状態にするための基本的な技術について、援助技術ひとつひとつの基礎となる要素とその根拠を学習する。演習では患者・看護師のロールプレイを通して、看護における人間関係のあり方も理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連する
到達目標	1．対象者の日常生活を援助する援助技術の基礎となる要素とその根拠を理解する。 2．看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を習得する。 3．看護職者として必要な態度を身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	感染予防を推進する技術	感染予防の意義、感染症を成立させる要素と成立過程	阿部
第2回	感染予防を推進する技術	手洗い方法：スクラブ法，ラビング法	阿部・幸山 演習 グループワーク
第3回	安楽かつ快適さを確保する技術	安楽な体位、ボディメカニクス、体位変換	阿部
第4回	安楽かつ快適さを確保する技術	体位変換とボディメカニクス	阿部・幸山 演習 グループワーク
第5回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定	バイタルサインとは　意識、呼吸	阿部
第6回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定	体温、脈拍、血圧	阿部
第7回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術	結果の解釈と報告、身体計測	阿部
第8回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定	バイタルサインの測定方法	阿部・幸山 演習 グループワーク
第9回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定	バイタルサインの測定方法	阿部・幸山 演習 グループワーク
第10回	技術チェック		
第11回	技術チェック		
第12回	まとめ	授業の総括（中間）	阿部
第13回	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定	バイタルサインの測定方法	阿部・幸山 演習 グループワーク
第14回	検査・治療を安全かつ正確に行う技術	身体計測	阿部・幸山 演習 グループワーク
第15回	まとめ	授業の総括	阿部

評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験（45%）、実技試験（40%）、レポート（15% 5回分）により評価する。 レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示する。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取らない。
課題等	課題にはコメントを追加し、返却する。
事前事後学修	講義前には事前学習課題を配布する。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出する。 週当たり1.5時間程度の授業外の学修が必要である。
教材教科書参考書	・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版，2022. 978-4-8404-7536-5 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版，2022. 978-4-8404-7537-2 ・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版，医学書院，2021. 978-4-260-04790-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介する
留意点	・既習の授業科目、特に「人体の構造」「人体の機能」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習すること。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励むことが必要である。 ・Webを利用した講義を行い、事前学習においてもWebを利用して動画視聴等を行う。

科目名	基礎看護技術演習Ⅱ	科目ナンバリング	N-NP BN 2-05.H N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	後期
		科目コード	N30037	時　間	30時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	阿部　智美、幸山　靖子 （実務経験のある教員）		授業形態	演習		複数
	アクティブラーニング	有							

授業の概要等	〔授業の主旨〕 基礎看護技術論・基礎看護技術演習Ⅰを基礎に、看護の対象の日常生活を整え、より健康的な状態にするための基本的な技術について、援助技術ひとつひとつの基礎となる要素とその根拠を学習する。清拭、寝衣交換、洗髪、部分浴、排泄の援助などの援助技術を習得する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している
到達目標	1．対象者の日常生活を援助する援助技術の基礎となる要素とその根拠を理解する。 2．看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を習得する。 3．看護職者として必要な態度を身につける。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	身体の清潔を援助する技術	清潔の意義 皮膚・粘膜の生理的メカニズムとケア 清潔ニーズのアセスメント	阿部
第2回	身体の清潔を援助する技術	演習：就床患者の寝衣交換	阿部・幸山 演習 グループワーク
第3回	身体の清潔を援助する技術	清潔の援助方法	阿部
第4回	身体の清潔を援助する技術	演習：就床患者の全身清拭 寝衣交換①	阿部・幸山 演習 グループワーク
第5回	身体の清潔を援助する技術	演習：就床患者の全身清拭 寝衣交換②	阿部・幸山 演習 グループワーク
第6回	身体の清潔を援助する技術	清潔の援助方法	阿部
第7回	身体の清潔を援助する技術	演習：就床患者の洗髪①	阿部・幸山 演習 グループワーク
第8回	身体の清潔を援助する技術	演習：就床患者の洗髪②	阿部・幸山 演習 グループワーク
第9回	身体の清潔を援助する技術	演習：部分浴（足浴）	阿部・幸山 演習 グループワーク
第10回	感染予防を推進する技術	感染予防をするためのプロセス	阿部
第11回	感染予防を推進する技術	演習：無菌操作（滅菌手袋の着脱 滅菌物の取り扱い）	阿部・幸山 演習 グループワーク
第12回	排泄を促す技術	排尿・排便の意義と生理学的メカニズム　排尿・排便のニーズのアセスメント	阿部
第13回	排泄を促す技術	排尿・排便の援助	阿部
第14回	排泄を促す技術	演習：浣腸	阿部・幸山 演習 グループワーク
第15回	排泄を促す技術	演習：導尿	阿部・幸山 演習 グループワーク

評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者に対して、筆記試験（45%）、実技試験（40%）、レポート（15% 5回分）により評価する。 レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示する。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取らない。
課題等	課題にはコメントを追加し、返却する。
事前事後学修	講義前には事前学習課題を配布する。演習前の事前学習、演習後の振り返りを提出する。 週当たり1.5時間程度の授業外の学修が必要である。
教材教科書参考書	・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版，2022. 978-4-8404-7536-5 ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ，メディカ出版，2022. 978-4-8404-7537-2 ・根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版，医学書院，2021. 978-4-260-04790-6 その他、適宜資料配布、参考書を紹介する
留意点	・既習の授業科目、特に「人体の構造」「人体の機能」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習すること。 ・自己学習や看護技術の反復練習に励むことが必要である。 ・Webを利用した講義を行い、事前学習においてもWebを利用して動画視聴等を行う。

科目名	ヘルスアセスメント	科目ナンバリング	N-NP BN 2-07.S N	単位数	2単位	対象学年	1年	開講学期	後期
		科目コード	N30007	時　間	30時間				

区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山靖子、阿部智美（実務経験のある教員） 宇田宗弘、田中真実	授業形態	講義	オムニバス
	アクティブラーニング	無					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 人体の構造や機能、基礎看護技術論、基礎看護技術演習Ⅰで学んだ内容などをふまえ、フィジカルイグザミネーションの基本的技術を学習する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの4、5に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。
到達目標	１．看護におけるヘルスアセスメントの概念について理解できる。 ２．対象者の主観的・客観的情報を収集するための問診や基本的なフィジカルイグザミネーションを実施する方法を明確にすることができる。 ３．事例を用いて、対象者の身体的および心理・社会的側面から情報を系統的に収集し、対象者の健康状態、生活状況を判断できるための、ヘルスアセスメントの方法について考えることができる。 ４．ヘルスアセスメントを行った内容から看護の必要性を述べることができる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	コースオリエンテーション 看護におけるヘルスアセスメント	看護におけるヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントとは	講義(幸山)
第2回	フィジカルアセスメントの基本技術	フィジカルイグザミネーションの基本技術 面接・問診、観察からのアセスメント	講義/演習 （幸山）
第3回	人体の解剖	人体の部位・器官の位置・方向の確認	講義（田中）
第4回	呼吸器系・循環器系のヘルスアセスメント	心臓・血管系のヘルスアセスメント	講義（宇田）
第5回	呼吸器系のヘルスアセスメント	呼吸器系のヘルスアセスメント	講義（幸山）
第6回	呼吸器系のヘルスアセスメント	呼吸器系のヘルスアセスメント	演習（幸山他）
第7回	心臓・血管系のヘルスアセスメント	心臓・血管系のヘルスアセスメント	講義（幸山）
第8回	心臓・血管系のヘルスアセスメント	心臓・血管系のヘルスアセスメント	演習（幸山他）
第9回	消化器系のヘルスアセスメント	消化器系のヘルスアセスメント	講義（宇田）
第10回	消化器系のヘルスアセスメント	消化器系のヘルスアセスメント	講義（阿部）
第11回	消化器系のヘルスアセスメント	消化器系のヘルスアセスメント	演習（阿部他）
第12回	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント	講義
第13回	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント	講義
第14回	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント	筋・骨格系・神経系のヘルスアセスメント	演習（阿部他）
第15回	まとめ	授業の総括	講義/演習

評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者に対して、定期試験（80%）、レポート（20%：4回分）により評価します。 レポートは授業の進行状況に合わせて随時提出を指示します。提出期限を過ぎたものは、原則として受け取りません。
課題等	課題にはコメントを追加し、返却します。
事前事後学修	・事前学習課題を配布します。 ・週当たり3時間程度、授業外に学修を進めましょう。
教材教科書参考書	・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メディカ出版，2022. ISBN 978-4-8404-7536-5 ・なるほどなっとく！解剖生理学 第2版，南山堂，多久和典子，多久和陽，ISBN 978-4-525-12162-4 ・ぜんぶわかる人体解剖図，成美堂，坂井建雄，橋本尚詞，ISBN:978-4-415-30619-3 その他、適宜資料配布、参考書を紹介します。
留意点	・既習の授業科目、特に「人体の構造Ⅰ」「人体の機能Ⅰ」を復習し、実践方法の根拠として関連させて学習しましょう。

科目名	地域包括ケアシステム論	科目ナンバリング	N-NP NI 2-42.H N	単位数 時　間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
		科目コード	N30059		30時間				

区分	看護実践科目	必修	担当者名	柳澤　尚代・川村　泰子 （実務経験のある教員）	授業 形態	講義	複数
	アクティブラーニング	有					

授業の概要	［授業の主旨］ 　住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるような地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）について学ぶ。また、地域のケアシステムの現状と課題を理解し、看護職が果たす役割を考える。 ［ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項］ ディプロマポリシー1・2・3に関連し、カリキュラムポリシー教育方法１・3に関連する
到達目標	１.地域包括ケアシステムの目指しているものについて考えることができる。 ２.ライフスタイル、健康レベルに応じた地域のサービスについて理解できる。 ３.地域で生活する人々の支援にかかわる専門職の役割について理解できる。 ４.地域包括ケアの取り組みの実際を理解できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
1	地域包括ケアとは	地域包括ケアシステムの目的と意義	
2	ケアシステムと社会資源	ケアシステムと社会資源を関連して理解する	
3	演習（１）：高齢者保健の社会資源	グループワーク	グループワーク ディベート プレゼンテーション
4	演習（２）：母子保健の社会資源	グループワーク	グループワーク ディベート プレゼンテーション
5	高齢者と地域包括ケアシステム（１）	地域におけるケアシステムの現状と課題	
6	高齢者と地域包括ケアシステム（２）	高齢者を対象としたケアシステムの背景	
7	高齢者と地域包括ケアシステム（３）	地域包括ケアと介護保険	
8	母子保健と地域包括ケアシステム（１）	母子保健システムの現状と課題	グループワーク プレゼンテーション
9	母子保健と地域包括ケアシステム（２）	母子を対象としたケアシステム	グループワーク プレゼンテーション
10	多職種連携の意義と方法（１）	地域包括ケアと多職種連携	
11	多職種連携の意義と方法（２）	多職種の専門性の理解	
12	システムの構築と地域ケア会議	地域ケア会議の意義と方法	
13	演習（３）：ケア会議の実際	グループワーク：ケア会議の役割機能とは	グループワーク ディベート プレゼンテーション
14	演習（４）：多職種の理解	グループワーク：地域で支援にかかわる多機種	グループワーク ディベート プレゼンテーション
15	地域包括ケアの役割	地域包括ケアにおける自助・互助・共助・公助とは	グループワーク ディベート プレゼンテーション

評価方法及び評価基準	1）2/3以上の出席者につき、出席状況、リフレクションペーパー、定期試験等を組み合わせて総合的に評価する。 2）リフレクションペーパーは、全ての授業終了後に提出することで5%を加算する。 3）定期試験は、試験結果を95%として評価する。
課題等	感想シートなどは、返却しない。
事前事後学修	授業で紹介する参考図書は、読むことを勧める。
教材 教科書 参考書	教科書：社会福祉と社会保障　2021　ISBN978-4-8404-7211-1 教科書：地域・在宅看護の基盤　2022　ISBN978-4-260-04689-3 国民衛生の動向　2021／2022、授業で提示した教材や資料等。
留意点	1）授業で紹介された文献などは、自己学習が重要である。 2）授業で学んだことを、日頃の学習及び社会活動に活かすことが大切である。 3）ニュース等を毎日視聴し、社会で起きていることに関心を持つことが不可欠である。 4）コロナ関連のニュースは、必ず視聴し、暮らしの場でどのようなことが起きているのかを把握する。

科目名	成人看護学概論	科目ナンバリング	N-NP NP 2-08.H N	単位数 時　間	1単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
		科目コード	N30014		15時間				

区分	看護実践科目	必修	担当者名	土　屋　陽　子 （実務経験のある教員）	授業 形態	講義	単独
	アクティブラーニング	無					

授業の概要	〔授業の主旨〕 ライフサイクルにおける成人期の位置づけと成人各期の特性（身体的・精神的、社会的）を全人的・総合的に学ぶ。また、成人期の健康特性及び加齢の進行に基づく生活習慣病の予防、疾病からの回復、重症化予防など健康問題を理解する。その上で、看護理論をふまえた成人への援助・支援の方法を理解し、成人看護の基本について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの２、３、４、６およびカリキュラムポリシーの３、４に関連している。
到達目標	１．成人の生活と健康について説明できる。 ２．成人への看護アプローチの基本を説明できる。 ３．成人の健康レベルに対応した看護を説明できる。 ４．成人の健康生活を促すための援助方法を説明できる。 ５．変化する医療・生活環境に対応した看護を説明できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考
第1回	成人と生活	１．成人（大人）とは　２．ライフサイクルからみた成人期の特徴と変化　３．大人の生活と社会との相互作用	講義
第2回	成人への看護アプローチの基本	１．患者と看護師の人間関係　２．チームアプローチと看護師の役割　３．実践における倫理的判断、意思決定支援	講義
第3回	ヘルスプロモーションを促進する成人看護	個人、地域社会、職場におけるヘルスプロモーション	講義
第4回	健康を脅かす要因と看護	健康バランス、生活行動がもたらす健康問題とその予防	講義
第5回	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	急激な健康破綻をきたす状態、急激な健康破綻をきたした人への看護	講義
第6回	健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護	慢性病患者の理解、支援の基本（知識と技術、自己効力、エンパワメント）	講義
第7回	終末期にある人を支える看護	終末期医療の現状、終末期にある人への看護	講義
第8回	新たな治療法、先端医療と看護	新たな治療法・医療処置の開発・普及、新たな治療法・医療処置を受ける患者・家族への看護	講義

評価方法及び評価基準	2/3以上の出席を以って評価の対象とする。 筆記試験(80%) 課題レポート(20%)
課題等	採点後の課題レポートは返却しない。
事前事後課題	各授業内容に関連する教科書の該当項目を読んでくること。 準備学習時間の目安：1日あたり30分程度
教材教科書参考書	教科書：小松浩子他著　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学総論　成人看護学①　　医学書院(ISBN978-4-260-0373-8) 随時、プリント配布、参考文献を紹介する。
留意点	各種メディアで報道される健康関連問題、最新の医療について感心を持ち、看護の役割について考えて下さい。

科目名	基礎看護学実習Ⅰ	科目ナンバリング	N-NP CT 2-48.H N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	後期集中
		科目コード	N31001	時　間	45時間				

区分	看護実践科目	必修	担当者名	幸山　靖子(実務経験のある教員) 阿部　智美(実務経験のある教員)	授業形態	実習	複数
	アクティブラーニング	有					

授業の概要等	〔授業の主旨〕 看護実践の見学・参加および受け持ち患者の日常生活の援助体験を通して、患者、患者の入院環境、日常生活の援助技術および患者・看護師関係の成立の実際を学び、看護実践に必要な基礎的能力を養うことを目指して、患者を受け持って行うものである。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1～7に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。
到達目標	１．患者の療養環境を知る。 ２．患者とのコミュニケーション、人間関係の成立について理解を深める。 ３．患者に必要な日常生活の援助を理解できる。 ４．将来、看護職者となるための看護観と態度を養う。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
第1回	実習オリエンテーション	実習の概要、目的・目標、方法、実習病院の概要の説明、留意事項の説明、身だしなみの確認、事前学習、技術演習	学内
第2回	施設オリエンテーション、看護の見学、参加、実施	病院・病棟の概要の説明と見学、受け持ち患者への挨拶、援助の見学・実施、報告、カンファレンス	各実習病院
第3回	看護の見学、参加、実施	受け持ち患者とのコミュニケーション、援助の見学・体験、報告、カンファレンス	各実習病院
第4回	看護の見学、参加、実施	受け持ち患者とのコミュニケーション、援助の見学・体験、報告、カンファレンス（まとめ）	各実習病院
第5回	実習のまとめ	カンファレンス「実習における学びと目標達成度、自己の課題」、実習記録の整理、レポートの作成	学内
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

評価方法及び評価基準	実習時間45時間の4/5以上の出席者に対して、基礎看護学実習Ⅰ評価基準に基づき評価する。
課題等	実習前後で提出された課題の内容に不足があった場合は、再度、提出する。
事前事後学修	実習前は事前学習課題、実習後は実習記録・レポートを提出する。
教材教科書参考書	１年次に履修した科目に関するテキスト、参考書や資料等を活用すること。
留意点	・この科目の履修要件は、学生便覧を参照すること。 ・実習時は、指定のユニホームを着用し、言動・身だしなみ等について注意する。看護を学ぶ学生として、品位を保ち、倫理に反しないように行動する。 ・実習要項を熟読し、予習・復習を十分おこなって、主体的に臨む。 ・自己の健康管理に留意し、感染予防策を徹底する。

科目名	健康づくり実習Ⅰ	科目ナンバリング	N-NP CT 2-58.H N	単位数 時　間	1単位	対象学年	1年	開講学期	1年前期
		科目コード	N31039		45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	柳澤尚代・大瀬富士子・佐藤厚子・川村泰子 菅原大輔・小野綾・齊藤史恵・髙橋義孝 木田優子・村上翔太郎 （実務経験のある教員）		授業形態	実習		複数
	アクティブラーニング	有							

授業の概要等	〔授業の主旨〕 地域で生活する人々の多様な生活や文化を捉え、生活の実際を知る。また、社会資源は生活支援とどのようなかかわりを持っているか実態を通して考える。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、2、3、5、6に関連し、カリキュラムポリシーの5、6、8に関連している。
到達目標	1.多様な場で展開される、人々の生活の実際を知る。 2.地域の社会資源について知る。 3.地域で生活する人々と、コミュニケーションができる。 4.ディスカッションやプレゼンテーションおよび記録を通して、自分の考えを表現できる。

授　業　計　画

回	主　題	授業内容	備考
1	オリエンテーション/計画の策定	実習オリエンテーション 計画の策定	グループワーク ディベート プレゼンテーション フィールドワーク PBL
2	計画の修正/実習施設	計画の修正/フィールドワーク	
3	実習施設	フィールドワーク（実践）	
4	実習施設/まとめ（学内）	フィールドワーク/グループのまとめ	
5	実習報告会	グループワークとプレゼンテーション	
		※詳細については別途提示する	

評価方法及び評価基準	4/5以上の出席者につき、健康づくり実習１評価表に基づき総合的に評価をする。
課題等	実習記録・レポートなどは、返却する。
事前事後学修	実習で紹介する参考図書は、必ず読むことを勧める。
教材教科書参考書	授業（ソーシャルスキル）で提示した教材や資料等
留意点	1）実習生にふさわしい態度（対人面・学習面）を心がける。 2）グループ単位の行動が多いため、メンバーシップを発揮し、主体的に行動する。

科目名	プライマリヘルスケア実習Ⅰ	科目ナンバリング	N-NP CT 2-59.H N	単位数	1単位	対象学年	1年	開講学期	1年前期
		科目コード	N31041	時　間	45時間				
区分	看護実践科目	必修	担当者名	土屋陽子　他 (実務経験のある教員)		授業形態	実習		複数
	アクティブラーニング	有							

授業の概要等	〔授業の主旨〕 病を持ちながら生活調整をしている人々が、共に支え合う活動を通して、地域でどのように生活しているのかその実際を知る。看護への関心・対象理解そして自己理解が深まり、学修への動機づけとなる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 デプロマポリシーの1,2,3,4,5, に関連し、カリキュラムポリシー3,5に関連している。
到達目標	1.生活調整・支援を必要としている人々の生活体験を聴くことができる。 2.共に支え合う活動の実際を知ることができる。
実習方法	数名の小グループで、病を持ちながら生活している人々の体験を聴くことや、調べ学習を通して対象理解を深める。学びをまとめ、報告会により学びを共有する。

習計画・内容

回	主　題		授業内容	備考
1	学内	実習オリエンテーション 学内演習	1)実習オリエンテーション 2)プライマリヘルスケア実習Ⅰの概要説明 3)傾聴を学ぶ（演習） 4)聴くための準備	＊実習2.3回目の地域は、１→2あるいは、２→１の順番となる。
2.3	地域1	施設オリエンテーション 対象へのインタビュー	1)施設(患者会等)の特徴、留意事項等オリエンテーションを受ける。 2)コミュニケーションを通して対象者との関係を形成する。 3)(座談会形式による)グループインタビューを実施する。 4)学生間で役割分担をして進める。	
	地域2	調べ学習	病を持ちながら生活している人の生活や共に支え合う活動について、多様な情報を通して(新聞・ブログ・手記・市内公共施設の探索・イベント参加など)、その実際を知る。	
4	学内	情報整理（実習グループ毎）	1)インタビュー内容や調べ学習の内容を実習目標に沿ってまとめる。 2)学生間で役割分担をして進める。	
5	学内	合同報告会	1)グループごとにポスターツアによる発表し意見交換を行う。 2)実習目標に沿って実習の学びを共有する。	

評価方法及び評価基準	5/4以上出席することにより評価の対象とし、個人レポート（40%)、施設での活動・グループ活動への主体的・積極的な取り組み状況・グループでの提出物・発表(60%)により評価する。
課題等	個人課題・グループ課題
事前事後学修	「体験できて良かった」で終わらず、体験を振り返り、どのような気づきがあったのか、考える時間を作ってください。
教材教科書参考書	なし
留意点	大人としてのマナーを守り、誠実な態度で実習に臨んでください。また、様々な個人情報を知ることもあります。守秘義務を心に留めて実習をして下さい。